

『だれかの笑顔のために』

夏休みを有意義に過ごしましょう！

子どもたちにとって楽しみな夏休みがはじまります。土日祝日も含めれば39日間となります。宿題もあると思いますが、せっかくの夏休みです。自分を成長させるために、いろいろなことにチャレンジしてほしいと思っています。



ある人のことばです。さて、だれの言葉でしょう？考えてみてください。

「学校は私に合わなかった。いつもクラスで一番できの悪い落ちこぼれの生徒だった。小学校には、わずか3か月しか通わなかった。父はわたしを馬鹿だと決め込んでいた。12歳のころ、ある事故で耳が聞こえなくなり、それ以来小鳥のさえずる声を聞いたことがない。」



こたえは、蓄音機（1877年）、白熱電球（1880年）、映写機（1889年）の三大発明をしたトマス・エジソンです。

では、次の言葉を言ったのは、どんな人でしょう？

「小学校に入学したが成績はパッとしなかった。注意散漫で教室の授業についてこられないと先生によく言われた。絵を描くのは好きだったが、ほめられたことは一度もない」

こたえは、ディズニーランドの生みの親であるウォルト・ディズニーです。

二人の言葉を紹介します。

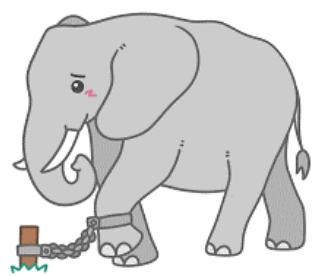
トマス・エジソン：「天才とは、1%のひらめきと、99%の汗である。」

ウォルト・ディズニー：「夢見ることができれば、それは実現できる。」

皆さんは無限の可能性を持っています。

しかし、人は過去の経験や体験によって、「自分はできない」「自分のレベルはこれくらいだ」「これ以上は無理だ」と思い込んで、限界を勝手に作ってしまうのだそうです。人間だけでなく、動物もまた思い込みで可能性にフタをします。

サーカスの象の話です。サーカスの象は子どものころ、脚に鎖をつけて逃げないように動けなくされます。子どもの象は何度も鎖を引っ張って逃げ出そうとしますが、動けません。そのうち、子どもの象は「鎖＝動けない」と思い込み、鎖をつけられると引っ張ることをやめてしまうのだそうです。こうやって育てられた象は、大きくなってしまって鎖をつけられると動けないとと思い込んでいるので、おとなしくなるのです。鎖は土に軽く打ち込んでいるだけなので、大人の象であれば簡単に外すことができるのに、動こうとしなくなるのです。



本当はできる力があるのに、できないと思い込んでしまう。人間も同じです。本当はできる力があるのに、過去の経験や体験によって、できないと思い込んでしまうのです。このように、人間は、良くも悪くも、思い込みを実現する力を持っています。だからこそ、運動でも勉強でも、「絶対できる」と自分を信じることが大切なのです。トマス・エジソンもウォルト・ディズニーも夢をもって、自分を信じて努力を続けられたのだと思います。この夏休み、自分の力を信じて、何かに挑戦してくれることを期待しています。